



# さわやか トカラ情報

〒892-0822  
鹿児島市泉町13番13号  
TEL099-227-9771

発行  
十島村教育委員会

## 【年末・年始の節目となる時期を迎えるにあたって!】

十島村教育委員会教育長 木戸 浩

「月日は百代の過客にして、行き交う年もまた旅人なり」という松尾芭蕉の『奥の細道』の冒頭の有名な一節です。年末になると毎年この言葉を思い出します。時間の経過の速さとともに、留まることのない時間の普遍性を感じるところです。

○ ユネスコ無形文化遺産「来訪神・仮面・仮装の神々」の全国研修会  
先月11月に秋田県の男鹿市を訪問してきました。全国に10の自治体がユネスコの無形文化遺産に登録されています。今回、男鹿市に10の自治体が集まり、現在抱えている課題や今後に向けての取組について議論を行いました。ほとんどの自治体は年末年始の時期に現れる来訪神や仮面神ですが、十島村の「ボゼ」と、三島村の「メンドン」はお盆の時期に登場する来訪神になります。

来年度、鹿児島県にある3つの自治体で、この全国研修会を開催することになりました。現地で開催することは、移動手段や宿泊施設等の課題もありますので、鹿児島市内で開催する予定です。今後も他の自治体でも持ち回りで開催していくことになりそうです。



悪石島の「ボゼ」に限らず、他の島でも様々な盆行事や伝統的な神行事等が現在も受け継がれています。これからもそれらの行事を大切にしていけるためにも地元の方々と協力していきたいと思えます。

残りわずかな12月ですが、今年1年を自分なりに振り返っていたき、反省ばかりではなくよかったことや実績としてやり遂げたことに満足して、自己評価を客観的に行いながら、より来年に繋げる取組にしていだければと思います。

それでは、皆様健康に気を付けて佳いお年をお迎えください。

## 生涯学習県民大学講座の御案内

### 講座内容（人権課題）

インターネットと人権侵害  
～今、スマホを持つ子供たちに起きている事実～  
講師 WEB110 主宰 吉川誠司

日時 令和8年1月7日（水）  
13:50～15:40  
会場 各義務教育学校  
研修方法 Zoomによるリモート

申込み 各義務教育学校教頭または二次元コード



## 十島村で学ぶ

### 【最近考えていること】

宝島学園8年 大川当太郎

実はもう宝島二年目の私は、宝島に来た一年目の一学期、毎日朝6時に起きられました。元々朝の弱い私が、毎朝起きられることに驚きました。ただ、二学期に入るとまた朝が弱くなり始めました。寮の生活に慣れて、宝島のこともわかってくるとともに、楽しさはあれど、島に来たばかりの新鮮さはなくなり、いろいろなことに飽きを感じ始めました。もう鬼ごっこにも飽き始めた時、何をやろうか考えました。そしてその「考える」という行為が楽しくなっていました。それは短い時間だけだったかもしれないけれど、勉強をする気にもさせてくれました。正直、人生で初めて自分から勉強をしたかもかもしれません。テストではあまりいい点数は取れませんでした。母や祖父に褒められました。

今は八年生です。八年生の一学期末は、テスト勉強をする気が起きなくて、少ししか勉強をしませんでした。当然ながら点数は満足のいくものにはなりませんでしたが、二学期に入って変わりました。この前にあった期末テストでは、勉強に向かなかった過去の自分を思い出しながら勉強をしました。あまりいい点数はとれませんでした。確実に前のテストより点数は上がり、嬉しかったです。

今回、私は2つの気づきを文章にしました。一つ目は慣れについてです。一年目の二学期に、朝起きられなくなったのは、寮での生活に慣れてしまい、東京での生活と同じになってしまったからでした。

もう一つの気づきは努力についてです。「努力すれば報われるのではなく、報われるまで努力する」これはリオネル・メッシの言葉です。世界で活躍する選手も努力をするのです。努力をしなければ結果はついてこないのです。それはもちろん私にも言えることであり、私は実際テスト勉強を頑張ったら点数が上がりました。そして、この間先生が言っていた言葉が心に残っています。「テストを終わったからといってそのまま放っておくのはもったいない」という言葉です。私もそう思いました。そして同時に物事をすぐに諦めないよう努力をしようと思いました。

令和7年7月11日 南日本新聞「若い目」

リモート元気出た

悪石島学園 6年 島 亨平

ぼくは、十島村の悪石島から避難しました。なぜかという、地震が続いているからです。

地震のせいで、授業が受けられなくなってしまいました。しかし、昨日から、リモートで授業を受けることができるようになりました。久しぶりにみんなの顔を見ると、とても元気があふれてきて、うれしい気持ちになりました。

今回のリモート授業の中で分かったことがあります。それは学校と家での授業の違いです。

学校で授業を受ける場合、自分のまわりには勉強と関係のないものは置いてありません。しかし、家の場合は、関係のないものがたくさん置いてあります。そのため、授業に集中することができませんでした。これからは関係のない物をまわりに置かないようにして、集中してがんばっていきたくです。

そして、早く学校で授業を受けられるようになってほしいです。

### 子供のうた

(十月十七日  
南日本新聞掲載)

もみじの木

中之島学園 三年  
玉城 穰

秋の木を  
かんさつしていたら  
どろんどろん葉っぱが黄色くなった  
つぎは赤くなっていた  
そしてとうとう葉っぱが  
なくなりました  
その木でぼくは  
たくさん木のぼり  
今ではぼくの大しんゆう  
またあしたね



## 十島村総合教育会議

12月1日(月)村長、教育長、教育委員、教育委員会事務局による十島村総合教育会議兼第3回教育委員会を開催しました。

本年度の教育行政の経過と現状について事務局からの報告に対して各委員からの質問や今後の本村の教育課題について意見交換が行われました。

### 【中之島学園からのメッセージ】

中之島学園 教諭 山下愛未

今年も残すところあとわずか。島に冬の寒さがやってきましたが、学校の中は子どもたちの笑い声でぽかぽか温かいです。さて、私の大好きな歌手のAIさんの歌の中に「ハビネス」という曲があります。コカ・コーラのクリスマスキャンペーンソングであったこともあり、この時期になると、私の頭の中で流れるフレーズがあります。

「君が笑えばこの世界中にもっともっと幸せが広がる。」中之島のような小さな学校では、子どもたちの笑顔が特別な力を持ちます。人数が少ないからこそ、一人ひとりの笑顔が学園全体を照らし、私たち大人にも元気を与えてくれます。みんなで楽しく会話をしている時の笑顔、出来なかったことが出来るようになった時の笑顔、友達を優しく励ます時の笑顔、友達の良いところを伝える時の笑顔、みんなで何かを達成した時の満面の笑顔。この「笑顔の輪」こそが、学校という小さな世界から、地域全体へと、幸せの光が広がっていきます。

12月は人権週間がありました。鹿児島県での人権教育の基本姿勢に「M・o・m」という言葉があります。M(見つめる) o(思いをめぐらす) m(向き合う)。子どもたちと向き合う時、何かあったのかな、どんな思いがあるんだろうと、子どもたちが発する言葉だけではなく、表情や声のトーン、彼らの背景にも目を向けていきます。それは、一人ひとりが認められ、個性を最大限に引き出し、彼らの良さを輝かせていくことにつながっていきます。極小規模校なので、1人ひとりに向き合う時間がとても濃いです。そして、そこでの気づきは、私の教育観の新たな視点となります。

この島に来て、驚きや気づきが多い新鮮な毎日を過ごしています。地域の方々には、優しく声をかけていただき、たくさん愛情を与えていただき、感謝しています。教育観だけでなく、自分の人生が楽しく豊かになっていると感じています。いつもありがとうございます。

中之島より愛と感謝を込めて。